

【令和7年度 授業改善推進プラン】

板橋区立志村第五中学校

【国語】

<p>■生徒の状況</p>	<p>〈7学年〉 RSTの結果、6分野平均で全国平均を0.09ポイント上回っていた。特に「イメージ同定」と「具体例同定」、全国平均をそれぞれ0.16～0.20ポイント上回る高い結果となった。一方、「係り受け解析」「照応解決」「同義文判定」は全国平均をやや下回っている。</p> <p>〈8学年〉 RSTの結果、6分野すべてにおいて全国平均を上回っていた。特に「イメージ同定」と「具体例同定」は0.20～0.25ポイント上回る高い結果となった。一方、「係り受け解析」「照応解決」「同義文判定」は、他の分野と比較して数値がやや低い傾向にある。</p> <p>〈9学年〉 「全国学力・学習状況調査」の結果、全体の正答率は東京都の平均を0.3ポイント、全国平均を0.7ポイント上回っていた。特に、記述式問題の正答率が東京都及び国の平均を大きく上回り、全体的に無回答率も低かった。問題種別で見ると、漢字の正誤問題や書き手の意図を読み取る問題は他の問題と比較して正答率が低い傾向にあった。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<p>〈7学年〉 文の基本構造を把握する力、指示語の内容を理解する力、文章の意味を正確に捉える力の育成に、重点的に取り組む必要がある。</p> <p>〈8学年〉 文の基本構造を把握する力、指示語を理解する力、文章の意味を正確に把握する力の育成について、重点的に取り組む必要がある。</p> <p>〈9学年〉 漢字に課題があるため、語彙に関する指導方法を工夫が求められる。また、書き手の意図を理解することについては、文章全体を俯瞰的に捉え、文中から根拠を見つけながら読解する力を付ける必要がある。</p>
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p>〈7学年〉・〈8学年〉 文法の学習で基礎的な知識を定着させるとともに、説明的文章や物語文の読解において、文章の係り受けや指示語に注意を向けさせる課題を設定する。また、具体と抽象の関係を捉えながら読んだり、文章の要約をしたりする活動を積極的に取り入れる。</p> <p>〈9学年〉 語彙力を高めるために、漢字の書き取り学習だけでなく、同音異義語や類義語などにも重点を置いた学習を取り入れることで、知識の定着を図る。また、書き手の意図を的確に読み取る能力を向上させるため、文章の広い範囲から重要な情報を見つけ出し、それらを相互に関連付けてまとめる課題を授業に意識的に取り入れる。</p>

【令和7年度 授業改善推進プラン】

板橋区立志村第五中学校

【社会】

<p>■生徒の状況</p>	<p>〈7学年〉 観点別評価において、「知識・技能」で5割を満たしている生徒は76%、そのうち8割を満たしている生徒は37%であった。「思考・判断・表現」で5割を満たしている生徒は54%、そのうち8割を満たしている生徒は7%であった。このことから、学年全体として「知識・技能」よりも「思考・判断・表現」の定着に課題がある生徒が多いことがわかる。</p> <p>〈8学年〉 観点別評価において、「知識・技能」で5割を満たしている生徒は62%、そのうち8割を満たしている生徒は26%であった。「思考・判断・表現」で5割を満たしている生徒は72%、そのうち8割を満たしている生徒は27%であった。このことから、学年全体として「思考・判断・表現」よりも、「知識・技能」の定着に課題がある生徒が多いことがわかる。</p> <p>〈9年生〉 観点別評価において、「知識・技能」で5割を満たしている生徒は55%、そのうち8割を満たしている生徒は29%であった。「思考・判断・表現」で5割を満たしている生徒は64%、そのうち8割を満たしている生徒は21%であった。このことから、学年全体として「思考・判断・表現」よりも、「知識・技能」の定着に課題がある生徒が多いことが分かる。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解させ、知識として定着させる。 ・社会的事象に関する諸資料から有用な情報を適切に選択・活用し、自分の言葉で表現する力を育成する。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを明確に示し、授業の終わりに生徒が学習内容についてキーワードを用いて、短い文章で振り返る時間を確保する。 ・単元ごとに小テストを行うなどして、知識の定着を図る。 ・場面に応じてICT機器を活用し、生徒が主体的に学びへ向かう環境をつくる。 ・授業内で多様な資料を提示し、生徒の社会科に対する興味・関心を高める。 ・教科書や資料集の資料・グラフについて、内容を確認するとともに、そこから読み取れることを根拠として、自分の考えをまとめたり、他者と意見を共有したりする時間を設け、引き続き思考力・判断力・表現力の向上を図る。 ・公民的分野において、社会に関する身近な話題を授業に多く取り入れ、より具体的な事例を基に考察し、意見をまとめて発表する機会を増やす。

【令和 7 年度 授業改善推進プラン】

板橋区立志村第五中学校

【数学】

<p>■生徒の状況</p>	<p>〈7 学年〉 1 学期期末考査では、正答率が 8 割以上の生徒が 37%、平均得点は 69.5 点であった。知識・技能を問う問題の正答率は 71.2%、思考力を問う問題は 67.8%である。授業では、自分の考えを説明しようとする姿勢が見られるが、適切な用語を覚えておらず、それを用いて説明できる生徒は少ない。既習事項を活用し、自分の考えを正確に表現する力の向上が課題である。</p> <p>〈8 学年〉 1 学期期末考査では、正答率が 8 割以上の生徒が 25%、平均得点は 61 点である。基本的な知識・技能を問う問題の正答率は約 68%、思考力を問う問題は約 48%である。知識・技能の定着や習得しようとする意欲は高い。一方で、身に付けた知識を活用して思考し、表現する力に課題がある。また、それらの力を高める必要性を理解し、その意識を高めていく必要がある。</p> <p>〈9 学年〉 全国学力・学習状況調査の結果から、「素数」、「変化の割合」などの基礎的な知識の定着に課題があることがわかった。正しく知識を身に付けるよう指導するだけでなく、知識を応用する場面においても正確な用語の理解に基づいた説明ができるよう指導する必要がある。また、定期考査の知識・技能を問う問題の正答率は 72%、思考力を問う問題は 48%である。基礎的な知識を確実に身に付け、その知識を活用して自分の考えを表現する力の育成を図る必要がある。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力・判断力・表現力の育成が課題であり、それらの力を高めるために、知識伝達、技能習得型の授業に偏らないようにする。 ・生徒が自身の学習を振り返ったり、協働により他者の考えを参考にししてさらに自分の考えを深めたり、自主的に学び方を調整できるような指導を工夫していく。 ・習熟度別少人数授業において、学習内容やワークシート等を共有し、クラスによる差異が生じないよう配慮する。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の授業アンケートから、「話し合い活動を増やしてほしい」「振り返りの時間を延ばしてほしい」という要望が多く寄せられている。個人やグループでの活動の時間を確保することにより生徒の思考を促進するとともに、生徒同士の考えを伝え合う場を設定する。 ・授業や単元ごとに学習内容を振り返り、知識の定着度や学習方法の改善を図る時間を確保する。 ・問題解決学習や協働学習を多く取り入れる。また、その際はタブレット等のICT機器を効果的に活用できるよう教材研究を進める。 ・生徒の振り返りやアンケート結果から、指導内容及び指導方法、テスト等の出題の適切性を見直し、常に授業改善に努める。

【令和7年度 授業改善推進プラン】

板橋区立志村第五中学校

【理科】

<p>■生徒の状況</p>	<p>〈7学年〉 〈8学年〉 1 学期期末考査において、「知識・技能」を問う問題で5割以上正答した生徒は7学年で69%、8学年で76%であった。その中でも8割以上正答した生徒は7学年で53%、8学年で53%であった。一方で「思考・判断・表現」を問う問題で5割以上正答した生徒は7学年で23%、8学年で57%であった。その中でも8割以上正答した生徒は7学年で18%、8学年で19%であった。 このことから基礎知識や実験方法を理解している生徒は多いものの、科学的な思考に課題がある生徒が多いと考えられる。実験や観察を通して得た知識を活用して考察し、自分の言葉で表現する力が十分に身に付いていない状況である。</p> <p>〈9学年〉 全国学力調査において、「知識・技能」を問う問題の正答率は平均71%であった。一方で、「思考・判断・表現」を問う問題の正答率は平均44%であった。 その中でも、「実験の技能」が93%、「探究活動」が86%、「学習活動における振り返りの記述」が89%と高い水準であったのに対し、「考察をより確かなものにするための記述」は15%であった。 このことから、基礎知識や実験技能が身につけている生徒は多いものの科学的な思考について課題がある生徒が多いと考えられる。実験や観察を通して得た知識を活用し、自分の言葉で的確に表現する力が十分に身につけていない状況である。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<p>〈7学年〉 〈8学年〉 実験・観察など協働的な学習形態が実践しやすいため、生徒は主体的に活動できている。一方で、学習形態を自ら選択して学習を進める、個別最適な学びの充実が課題である。 また、生徒の授業アンケートでは『振り返りの時間を確保してほしい』『振り返りをデジタルで記入したい』という要望があった。</p> <p>〈9学年〉 実験・観察、話し合い活動といった協働的な学習形態により、生徒は主体的に活動できている。また、振り返りをデジタル化したことで、生徒が取り組みやすくなったと考えられる。 一方で、考察の記述は多くの生徒が取り組めるようになったが、根拠に基づいた記述には課題が残っている。ICTを活用した個別最適な学びの充実も課題である。</p>
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p>〈7学年〉 〈8学年〉 協働的な学習は継続しつつ、生徒が学習形態を自ら選択する機会を増やしていく。さらに、『振り返り』を一人一台端末で実施し、生徒自身が記入内容を授業後に再確認できる環境を整える。授業内に『振り返り』の時間を確保し、学びを日常生活と関連付けながら、基礎・基本の定着と理解を深めていく。</p> <p>〈9学年〉 根拠に基づいた考察をより確かなものにするため、記述には課題が残っているため、協働的な学習を通して理解を深め、質の高い考察の記述ができるよう指導時間を確保する。また、模範となる生徒の記述をクラスルーム等で共有し、生徒が授業後にも優れた記述を参考にできる環境を整えていく。</p>

【令和7年度 授業改善推進プラン】

板橋区立志村第五中学校

【音楽】

<p>■生徒の状況</p>	<p>全体的に意欲的な生徒が多く、授業にもよく取り組んでいる。一方で、1学期の授業アンケートでは、否定的な回答が3～4割を占めており、改善が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「班やグループで取り組む時間」について「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の回答が27.9% ・「生徒のクロームブックの活用」について、「どちらかというところ思わない」「そう思わない」の回答が39.25% ・「学んだことをもとに、自分の考えを理由と一緒に発表したり表現したりすることがある」について「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の回答が31.0%であった。 <p>また、学習活動の様子を見ると、鑑賞に比べて、表現（特に歌唱）活動により積極的に取り組む傾向がある。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・得た知識や技能を、実際の音楽表現（鑑賞・演奏）と結び付けて理解させる授業の工夫が必要である。 ・歌唱活動において、生徒が自分のパートの役割を考え、全体の響きを聴きながら歌う態度を養うことが課題である。 ・ICT機器を効果的に活用し、生徒の理解を促す分かりやすい授業展開が求められる。 ・話し合い活動や生徒同士が互いの表現を評価し合う機会を設け、主体的な学習態度を育成することが課題である。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の基礎的な知識・技能を、音楽活動やワークシートを用いて着実に指導する。 ・ICT機器や視聴覚教材を活用し、授業内容の充実を図る。 ・ICT機器の特性を活かし、生徒が自分のペースで学習できる場面を設ける。 ・話し合い活動を取り入れ、他者の意見に触れることで、自分の考えを広げ、学びを深める機会をつくる。 ・音楽活動を通じて「聴く」ことの重要性を伝え、それが表現力の向上や楽曲の深い理解につながるよう、授業を工夫する。

【令和7年度 授業改善推進プラン】

板橋区立志村第五中学校

【美術】

<p>■生徒の状況</p>	<p>〈7学年〉 授業への取り組みは意欲的である。集中して話を聞く力がある生徒が多く、課題内容の理解が早い。技能面では、目標を達成しようとする意欲があり丁寧な制作が見られる。発想力については、課題に対してのキーワードから発想を広げ、自分の考えを深めることが得意な生徒が多くみられる一方で、苦手な生徒もいる。道具の扱いや片付けなど小学生までの基本はおおむね定着している。技能や発想力については個人差がある。定期考査の平均点が59点と高くはないため、基礎知識の定着や学習方法に課題があると考えられる。</p> <p>〈8学年〉 作品制作には意欲的である。課題内容の理解には個人差があり、個別の説明が必要な場合も多い。ワークシートや手本を見ることで、制作の流れをおおむね理解し制作を進めることができる。作品鑑賞や相互鑑賞では、自分の考えを深める力や文章での表現力にやや差が見られる。定期考査の平均点が53点と高くはないため、基礎知識の定着や学習方法が不十分な生徒が多いと考えられる。</p> <p>〈9学年〉 作品制作は全体的に非常に意欲的である。集中して話を聞く力に差はあるものの、課題内容の理解は早い。技能面では目標を達成しようとする意欲があり丁寧な制作が見られる。発想力について、キーワードから発想を広げ、自分の考えを深めることが得意な生徒がいる一方で、苦手な生徒も多い。作品鑑賞や相互鑑賞では主体的な姿勢がみられるが、自分の考えを深める力や文章での表現力にはやや差が見られる。定期考査の平均点は59点であり、学習方法に改善が必要な生徒もいる。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の制作進度に差が出る。 ・発想・表現の能力に個人差がある。 ・言葉で自分の考えや意図を表現する力が不足している。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・板書や掲示、手順を記載したワークシートを活用し、制作手順を生徒自身が確認できるようにする。 ・グループで作業することで、教え合ったり周りの作業から学んだりする機会をつくる。 ・ワークシートや板書で、毎時間完成までの見通しを毎時もたせる。 ・資料集・教科書・プリントなどの要点に線を引かせるなどして知識の定着を図る。 ・マインドマップ等のワークシートを用意し、言葉を書き出し、つなげていくことで発想の広がりをもつ。 ・鑑賞の時間にお互いの意見を発表する場を設け、互いの表現の幅を広げる機会とする。

【令和7年度 授業改善推進プラン】

板橋区立志村第五中学校

【保健体育】

■生徒の状況	<p>東京都児童・生徒体力・運動能力・生活・運動習慣等調査によると、本校生徒の体力合計点は、7・9学年女子を除き全国平均を上回っている。9学年女子においても全国平均と同程度の数値である。測定種目では、学校全体として長座体前屈、反復横跳び、上体起こしの数値が高い傾向にある。</p> <p>近年、運動機会が保健体育の授業のみという生徒が増加傾向にある。授業では生徒が活動する時間を確保し、補強運動を継続的に行った。体力テストの数値向上につながったと考えられる。</p>
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none">・健康面に配慮をしつつ、生徒の体力や運動能力を向上させるための指導方法・内容を充実させる。・生徒の技術向上や協働的な学びを深めるため、ICTの効果的な活用方法を研究・実践していく。・学習した内容について、キーワードやポイントを意識して体を動かしたり、説明したりできるように指導する。
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none">・準備運動の中に、瞬発力や全身持久力を高める補強運動を取り入れ、基礎体力の向上を図る。また、各種目に関連する補強運動も行い、専門的な運動能力や巧緻性の向上もめざす。・話し合いや教え合いの場面を確保し、個人やグループで課題を見付け、根拠をもとに考えを共有する協働的な授業を展開する。・タブレットを効果的に活用する。具体的には、振り返りをタブレットに記録・蓄積し、他の生徒と共有できるようにする。

【令和7年度 授業改善推進プラン】

板橋区立志村第五中学校

【技術・家庭】

<p>■生徒の状況</p>	<p>技術 全体的に意欲的に授業に取り組み、内容はよく理解している。しかし、答えのない問題を主体的に考えようとするのは苦手な傾向にある。実習においても意欲的に取り組み、技能の定着が見られる。</p> <p>家庭 〈7学年〉 積極的に課題に取り組む生徒が多い。しかし、実技においては一度の経験だけでは、習得が難しい技能もある。特にミシン操作では個人指導の場面が多く、時間が経つと同じ質問をする生徒も少なくない。</p> <p>〈8学年〉 何事にも、意欲的で実習にも積極的に取り組んでいる。また、どんな場面でも班員が協力し合う姿勢は素晴らしい。</p> <p>〈9学年〉 1学期の「生命誕生」の学習を通して、命の大切さを真剣に考えていた。2学期のおもちゃ作りでは、使う幼児のために一針一針丁寧に縫うなど、何事にも集中して取り組んでいる。その時間にやるべき課題をしっかりと捉え、目標を達成しようと努力する姿が見られた。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<p>技術 ・授業内容を理解する力はあるが、答えのない問題に対して「何が問題か」「どうすればより良くなるか」を主体的に考えようとする意識が低い。 ・平均的な技能の定着は見られるが、より発展的な技能の習得には至っていない。</p> <p>家庭 〈7学年〉 静かに授業は聞いているが、いざワークシートや実習になると、全体への説明内容を整理して自分が何をすべきかを理解し、すぐ行動へ移せない生徒が見られる。</p> <p>〈8学年〉 授業内容を理解しようと努めているが、実技を授業内だけでなく実生活の中で定着させていくことが課題である。</p> <p>〈9学年〉 目標達成への意欲は高いものの、技能面の定着は十分とは言えず、反復練習を通して確実な習得を促す。</p>
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p>技術 ・問題に対して答えを教えるのではなく、考える材料と時間を十分に与え、生徒自身に問題解決への道筋を考えさせる。 ・生徒の進度に合わせてより高度な技能に触れる機会を設け、定着を図る。</p> <p>家庭 ・全学年を通して、実体験が乏しい生徒が多いため、常に家庭でのお手伝いを推奨していく。授業では、今後の生活に必要な知識と経験を、実習を通して伝えていく。 ・課題が早く終わった生徒が、まだ途中の生徒に教え合う場面を多く取り入れ、協働的な学びを促す。</p>

【令和 7年度 授業改善推進プラン】

板橋区立志村第五中学校

【英語】

<p>■生徒の状況</p>	<p>〈7学年〉 一学期における定期テストでは、知識・技能に関する問題の正答率が 83.5%、思考・判断・表現に関する問題の正答率が 68.2%であった。小学校の外国語活動で学習した知識は定着しているが、その知識を用いて英文を作るなど、表現する力はまだ十分に身につけていない。</p> <p>〈8学年〉 一学期における定期テストでは、知識・技能に関する問題の正答率が 73.9%、思考・判断・表現に関する問題の正答率が 60.9%であった。既習の語句や基本的な文法などの知識は身につけているが、その知識を用いて読解したり英作文で表現したりする力はまだ十分に身に付いていない。</p> <p>〈9学年〉 一学期における定期テストでは、知識・技能に関する問題の正答率が 65.0%、思考・判断・表現に関する問題の正答率が 56.0%であった。単語テストや問題演習で一定の知識は身に付いているが、その知識を活用して読解したり英作文で表現したりする力はまだ身に付いていない。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<p>〈7学年〉 文法学習を通して、小学校で学習した内容を系統的な知識として定着させる必要がある。文法事項を活用して日常生活に関連した事柄を表現する機会を設け、表現力を高めることが課題である。</p> <p>〈8学年〉 これまで基本文の復習として「話すこと」を中心に行ってきた。今後は、学習した表現を応用し、自分自身について表現したり、長文読解に、主体的に取り組んだりする機会を設け、応用力を高めることが課題である。</p> <p>〈9学年〉 現在完了形など、日本語の感覚では捉えにくい文法事項の理解や、長文の読解に時間を要している。結果として教員が説明する時間が長くなり、生徒が自ら考え表現する時間を十分に確保することができていないことが課題である。</p>
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p>〈7学年〉 新しい文法事項を学習する度に、自己表現の機会を設ける。まずは、「主語＋動詞＋目的語」「主語＋動詞＋補語」といった基本的な文型で表現することから始める。生徒が考えた英文を相互に発表する機会を設け、他者の良い表現を取り入れながら、自分の表現をより良くしていくよう働きかける。</p> <p>〈8学年〉 Let's Read などの読解の教材では、自学・協働学習の形態を取り入れる。普段の授業や Unit ごとの表現活動では、自分の考えなどをより自由に表現する機会を増やす。</p> <p>〈9学年〉 文法指導は、問題演習で終わらせずに、常に「表現する」という目標を設定して行う。長文読解においても、全文を和訳することに比重をおかず、内容を踏まえて自分の考えを表現することを目標とする。その際、表現のヒントを Google クラブルーム等で複数提示し、生徒が習熟度に応じて豊かな表現を生み出せるように支援する。また、作成した英文は学習端末で共有し、多様な表現に触れる機会を設ける。</p>